

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26750283

研究課題名(和文)メキシコ先住民伝統スポーツの文化資源化

研究課題名(英文)The Cultural Possibility of Mexican Indigenous and Traditional Sport

研究代表者

小木曾 航平(Kogiso, Kohei)

早稲田大学・スポーツ科学大学院・助教

研究者番号：00711235

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、メキシコの「先住民伝統スポーツ」を対象に、それが文化資源として活用されるようになる際の特色、仕組み、そして可能性について文化人類学の手法を用いて総合的に解明することを目指した。特に対象としたのはオアハカ州を発祥とする「ペロタ・ミシュテカ」というスポーツである。このスポーツは現在、オアハカ移民によってアメリカでも行われている。研究期間中、計5回、メキシコとアメリカにおいて現地調査研究を実施した。その結果、先住民伝統スポーツが文化資源化する際の特色として「伝播」、その仕組みとして「移民と政府の協同」、そして可能性として「文化的アイデンティティの維持と強化」が示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to examine the characteristics, mechanisms, and possibilities of Mexico's "indigenous traditional sports" as it is to be used as cultural resources by using cultural anthropology method. Especially we focus on "Pelota Mishteca" which originated in Oaxaca state. This sport is currently played in the United States by Oaxaca immigrants. During the research period, we conducted 5 times field researches in Mexico and the United States. As a result, we clarified acculturation process of indigenous and traditional sports from three aspects as follow: (1) "diffusion" as a significant feature, (2) "immigration and government cooperation" as its mechanism, and "to maintain and reinforce cultural identity" as possibility.

研究分野：スポーツ人類学

キーワード：先住民伝統スポーツ 文化資源化 伝播 移民 オアハカ州 ペロタ・ミシュテカ

1. 研究開始当初の背景

現在でも人口の30%を占めると言われるメキシコ先住民は、メキシコが近代国家としての歩みを始めて以来、政府にとって常に大きな課題であった。20世紀前半、メキシコ政府は先住民社会の近代化を積極的に推し進めていた。そして、その過程において、先住民と先住民文化は国民国家統合の対象として、メキシコへの同化を余儀なくされた。

しかし、1970年代後半になると、先住民や少数民族の権利に対する世界レベルでの意識の高まりを背景に、メキシコにおいても先住民の権利回復や地位向上が図られるようになった。そして、ついに2001年、メキシコは自らを多文化国家と規定し、先住民が自らの文化を国内において自由に行使する権利を保障した。

こうした背景の下、先住民伝統スポーツの意味合いも大きく変容することとなった。メキシコ政府は先住民伝統スポーツを多文化国家としてのメキシコの、新たなナショナル・アイデンティティを象徴する文化と考え、学校体育や部活動への導入を始めている。他方で、こうした国家主導による先住民文化の保護と継承は必ずしも先住民文化が先住民自身の手に戻されたことを意味しないという指摘があるのも事実である。これは対象を先住民伝統スポーツに限っても言えることである。

しかしながら、そうした文脈に照らしてみれば、近年、メキシコの山岳地帯に住み続けてきたタラウマラが自らの先住民伝統スポーツである「ララヒツパリ」を通じて獲得した知識と走力をもってして、ウルトラマラソンという近代的なスポーツイベントに出場し、賞金を獲得するケースは我々に興味深い事実を提供してくれている。本研究が着想された根拠はここにある。先住民文化尊重の流れの中で、先住民自身がいかに先住民文化を自分たちの生活に資する形で再利用し始めたかという問題は、人類学領域でも検討が始まったばかりである。まして、先住民伝統スポーツに至ってはほぼ未開拓の状況である。

以上のことを踏まえ、本研究はメキシコの先住民伝統スポーツの資源化過程を人類学的に明らかにし、今日存在する数多くの多文化社会のマイノリティ（先住民や少数民族）自身が生き抜いていくために資することのできる方法を研究成果として発信していくことを目指した。

2. 研究の目的

本研究は、メキシコの「先住民伝統スポーツ」を対象に、それが文化資源として活用されるようになる際の特徴、仕組み、そして可能性について文化人類学の手法を用いて総合的に解明することを目指す。具体的には以下の通りである。

(1) メキシコにおける先住民伝統スポーツ

を対象とした政策の詳細を明らかにし、その歴史的経緯と実態を明らかにすること。

(2) 文化を資源として政治的、経済的に活用するには行政と先住民を媒介するような文化プロモーターの役割が欠かせないが、メキシコの先住民伝統スポーツの場合、その役割を果たしている組織や人物はどのようなものだったのかを明らかにすること。

(3) (2)を踏まえ、先住民伝統スポーツを文化資源化する際の、政府、文化プロモーター、先住民それぞれの目的や意義を明らかにする。とりわけ、先住民がいかにその目的や意義に沿うかたちで先住民伝統スポーツを利用しているかを明らかにすること。

3. 研究の方法

本研究では主に文献資料の収集とその分析、そしてフィールドワークによる情報収集を行った。3年の研究期間における具体的な調査研究の概要については以下の通りである。

(1) 1年目の前半は日本語文献、英語文献を分析し、メキシコ社会における先住民伝統スポーツの社会的位置付けについて整理を行った。後半はメキシコでのフィールドワークを実施し、特に「ペロタ・ミシュテカ」や「ペロタ・プレペチャ」についての現況を調査した。

(2) 2年目は5月と8月にアメリカとメキシコにおいてフィールドワークを実施した。どちらも主にはペロタ・ミシュテカの実施状況について、統括組織や選手の実態、実施の目的などについて調査した。

(3) 3年目は5月と3月にアメリカとメキシコにおいてフィールドワークを実施した。とりわけペロタ・ミシュテカの発展についての政府の関与と選手の自助努力の様相について調査を行なった。

4. 研究成果

当初、想定していたメキシコ国内における複数の先住民伝統スポーツの文化資源化過程に関する研究は十分に行えなかった。その積極的な理由は「ペロタ・ミシュテカ」と言う先住民伝統スポーツの今日における発展の仕方が文化資源化と言う観点からみて大変に興味深かったからである。というのも、現在、ペロタ・ミシュテカはメキシコ国内とアメリカ国内においてそれぞれメキシコ人とメキシコ移民によって実践されているからである。そのような二つの国の間での先住民伝統スポーツの位置付けについて調査研究をすることから、以下のようなことが明ら

かになった。

(1) 伝播による自文化の目覚め

発祥地であるメキシコを離れて、アメリカという異国で行われることによって、ペロタ・ミシュテカはメキシコの伝統的な文化として再定義される契機を得ていた。そのことは、このようなスポーツの発展においては決定的に重要である。

(2) 移民の拠り所としてのスポーツ

アメリカ国内のメキシコ系移民にとっては、彼らをメキシコ人というアイデンティティに結びつけ続けるためにペロタ・ミシュテカが重要な役割を担っていた。このことについてはメキシコの政府も理解をしており、年に1度カリフォルニアで行われる大きな大会に支援を行なっている。

以上の成果によって、先住民伝統スポーツが文化資源化する際の特色として「伝播」が、その仕組みとして「移民相互の自助努力と政府の支援」、そして可能性として「文化的アイデンティティの維持と強化に資する」という結論が導き出された。

しかしながら、こうした特色、仕組み、可能性についての分析・考察にはまだ課題が残されている。それは、メキシコという国の歴史社会的コンテクストとの関係性について検討が不十分であるということである。その検討をするためにはさらなる継続調査と理論的考察が不可欠である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

小木曾航平、越境する民族スポーツ-「ペロタ・ミシュテカ国際トーナメント2015」調査報告-、スポーツ人類学研究、査読有、2015、11-22

小木曾航平、無形文化遺産に関するスポーツ人類学的研究の可能性：メキシコ先住民伝統スポーツ(「ペロタ・ミシュテカ」)の伝播を事例として、体育学研究、査読有、2017、オンライン早期公開中

〔学会発表〕(計7件)

Kohei Kogiso. 2014. The Presence of Ethnic Sports in Mexico. The Third Conference of the Asian Sport Anthropology Association.

小木曾航平、2015、メキシコ先住民スポーツのアクチュアリティ(1): ペロタ・ミシュテカを事例として、日本スポーツ人類学会第16回大会。

Kohei Kogiso. 2015. Translocal Ethnic Sport Community: How to Develop and Practice Ethnic Sports in Mexico.

International Symposium “Strategies and Practices in Developing Traditional Sports: Past Experiences and Current Trends”。

小木曾航平、2016、民族スポーツ論の転回：メキシコ先住民伝統スポーツの闘、日本スポーツ人類学会第17回大会。

Kohei Kogiso. 2016. Transnational Perspective on the Development of Pelota Mixteca: Making Sites in Between Mexico and the United States. The 2016 Congress of the International Society for the History of Sport and Physical Education.

小木曾航平、2017、球技の比較民族誌：ペロタ・ミシュテカとそのスポーツ的特徴、第110回現代人類学研究会。

小木曾航平、2017、メキシコ先住民伝統スポーツのアクチュアリティ(2): 用具にみる「ペロタ・ミシュテカ」の土着性、日本スポーツ人類学会第18回大会。

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小木曾 航平 (KOGISO, Kohei)
早稲田大学・スポーツ科学大学院・助教
研究者番号：00711235

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()